

心豊かに暮らし続けられる  
共創・自立・循環の  
宝島 対馬

# 第3次対馬市総合計画

## 概要版



長崎県  
対馬市  
Tsushima City

# はじめに



対馬市長  
比田勝尚喜

対馬市は、合併後、節目の20年を経過し、市民協働・市民主体のしまづくりを推進して参りましたが、第2次対馬市総合計画の改訂に際し、市民による市民のためのしまづくりをさらに推し進めるため、今後10年間の政策の指針となります「第3次対馬市総合計画」を策定いたしました。

また、本計画は、人口減少抑制対策、地方創生のための取組である地方版総合戦略を一体化した計画となっております。

本計画では、「ひと」「なりわい」「つながり」「ふるさと」のしまづくりテーマを掲げ、対馬にあるかけがえのない自然の豊かさ、人のあたたかさや力強さ、歴史や文化、しまの暮らしを持続可能な形で受け継ぎ、対馬が目指すありたい姿である

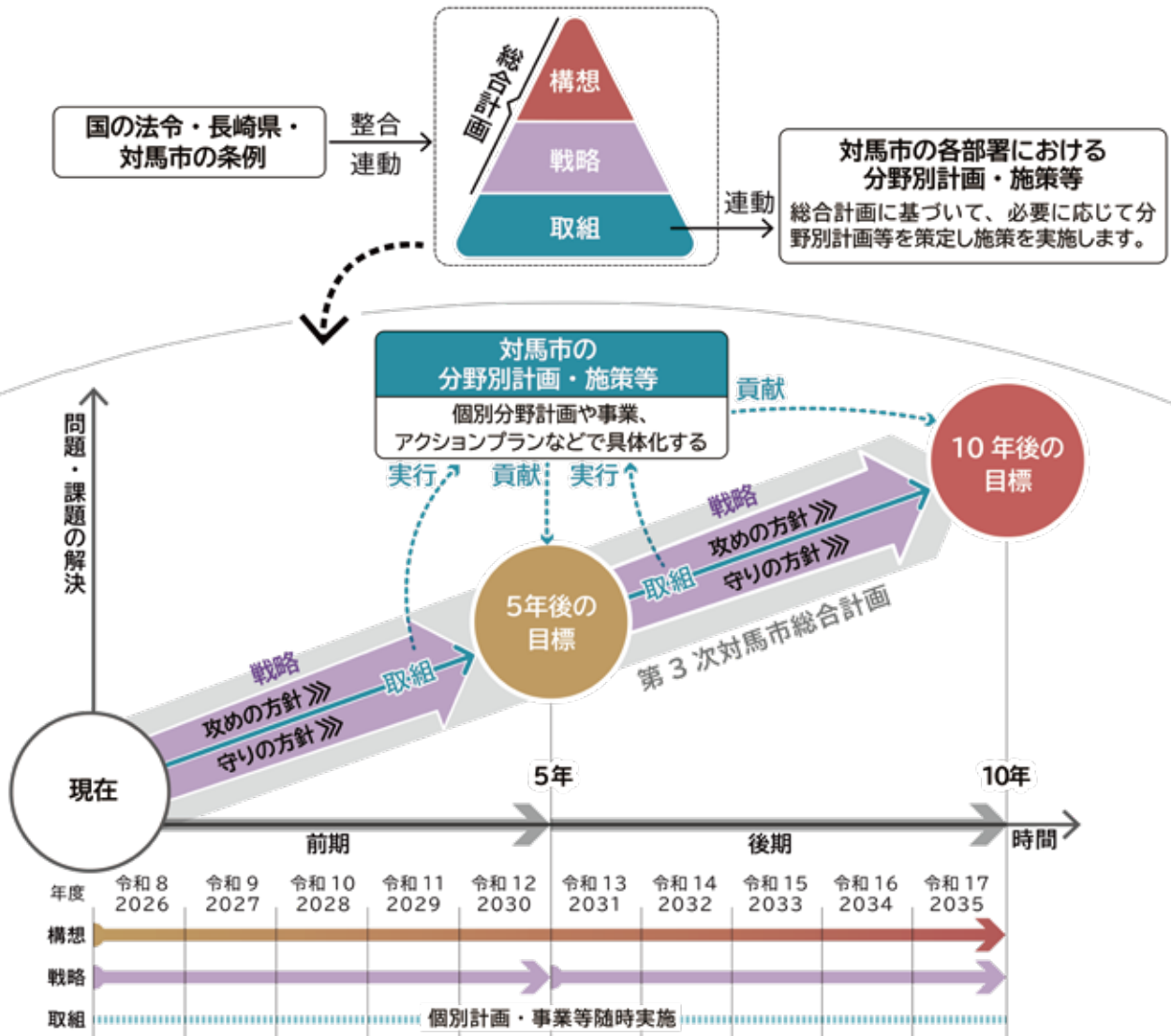
## 総合計画は未来への道しるべ



総合計画は、私たちの対馬のありたい姿(5年後・10年後の目標)を設定・共有し、行政や市民が目標に向かって協力しあいながらまちづくりに取り組んでいくための道しるべ(方針)となる計画です。

**構想**： 私たちがたどり着きたい10年後の目標(ゴール)を描いています。

**戦略**： ゴールに向かって、まず最初の5年間でどう歩むかという具体的な方針を立てています。



「心豊かに暮らし続けられる共創・自立・循環の宝島 対馬」を創るため、市民協働・市民主体のしまづくりをさらに進めて参ります。

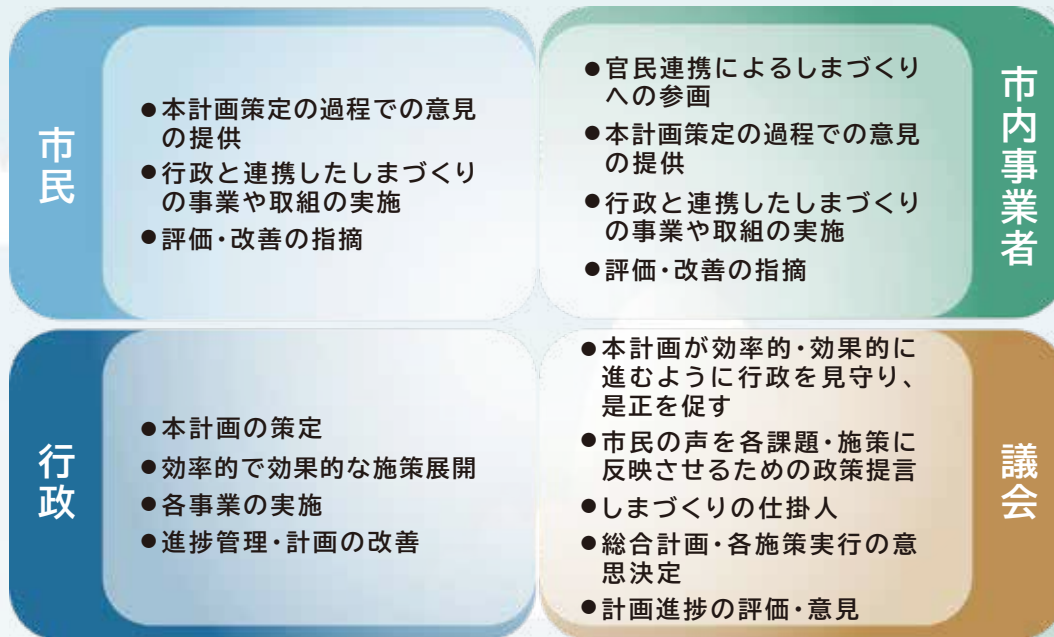
10年後の目標の実現にあたり、人口減少や少子高齢化、自然災害の激甚化・頻発化が進む中、本市が持続可能な地域社会を築くためには、直面する課題に目を背けることなく、市民と行政がこれまで以上に協働していくことが求められます。

「ここに生まれてよかった」「ここで暮らしてよかった」「これからもこの島で暮らしたい」「対馬に誇りを持っている」と誰もが心から思える島を目指して参りますので、今後とも一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



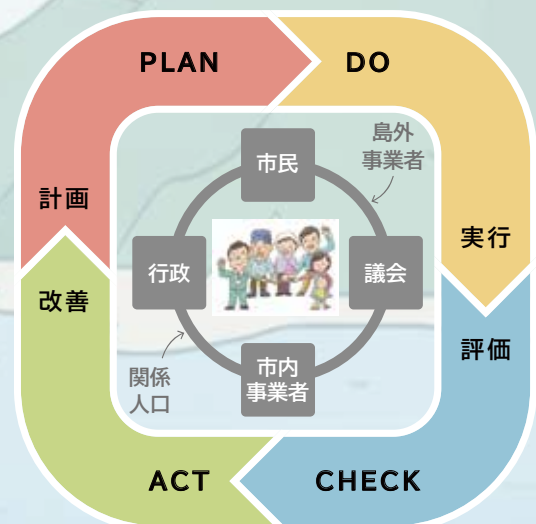
## みんなで動かす“しまづくり”へ。

この計画は、行政だけで完結するものではなく、みんなで使い、行動につなげることで効果が発揮される計画です。市民・事業者・行政・議会それぞれが自分事として、「何ができるか?」「これはできそう!」「これをしたい!」といった思いを持って、地域の課題に向き合い、自ら考え実行することが、しまづくりにとても大切です。



市民・事業者・行政・議会が一丸となって、島外事業者や関係人口と共に協働しながら、P(計画)→D(実行)→C(評価)→A(改善)のプロセスで適切に運用します。また、KGI・KPI・モニタリング指標を用いて評価・検証します。

※KGI・KPI・モニタリング指標など具体的な目標数値については、本編をご確認ください。



# 10年後の目標 [ありたい対馬の姿]

## 心豊かに暮らし続けられる

### 共創・自立・循環の宝島 対馬

私たちが目指す対馬の未来は、「ここに生まれてよかった」「ここで暮らしてよかった」「これからもこの島で暮らしたい」「対馬に誇りを持っている」と、誰もが心から思える島です。

人と人、地域と地域、島内外のつながりが大切にされ、あたらしい価値や活動がみんなの手で生み出されている島。

子や孫、さらにその先の世代まで、美しい自然との共生、家族や地域コミュニティのつながり、歴史の継承など、心の豊かさを大切にする暮らしが守り続けられている島。

島外から見ても、島内から見ても、かけがえのない故郷として大切にされる島。

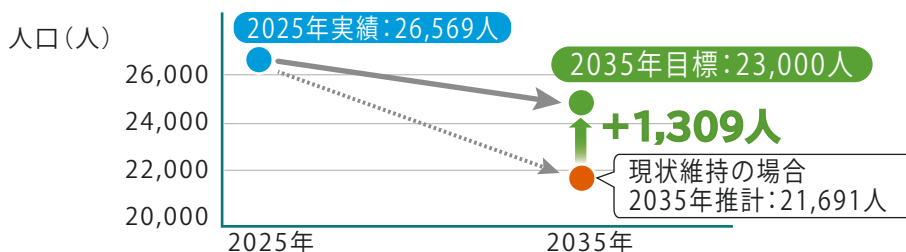
そして、有人国境離島として、海外との交流・物流・国防を支えてきたプライドを持つ島。

そのような、「共創・自立・循環」が根づいた“宝島”のような対馬をつくっていきます。



#### ■人口の目標■

2035年の人口 23,000人を目指して、人口減少対策に取り組めます！



# しまづくりテーマと目指す姿(4つのテーマ)

## ひと

-人口-

本編  
P.22~24

未来をつくる力が満ちている島

### 働き手の想いが、島の未来をデザインする

市民・事業者・行政がみんなで、しまづくりの挑戦を支援・応援することで、活力ある地域社会の再構築を目指します。

### 子育て世代の楽しい生活が、島の活力をつくる

子どもたちが心身ともに健やかで、活力に満ちた生活を送れるよう、医療、子育て、学びや教育環境を整え、子どもや子育て世代を全力で支援・応援する島を目指します。

### 経験者の知恵、活躍が島の営みを支える

誰もが心身ともに健やかで、年齢や立場に関わらず島の営みを支え、生きがいを持って暮らせる「健康長寿の島」の姿を目指します。

## なりわい

-経済-

本編  
P.25~26

多様な働き方で地域経済を動かしている島

### 新たな技術を取り入れ、持続可能な産業が展開されている

稼ぐ力と持続可能性が備わった産業に進化することで、収入が増え、対馬で働くことの魅力が高まり、働き手が増えるという好循環が生まれている島を目指します。

### 働き手が確保できている

対馬で働くことの魅力を高め、働く意欲を持つすべての人がいきいきと働ける選択肢や機会をつくり出します。

## つながり

-社会基盤-

本編  
P.27~29

安心と快適が続く心豊かな暮らしがある島

### 暮らしのインフラ・ライフラインを効率的に維持している

水道・道路・交通・エネルギー・情報などの暮らしに欠かせないインフラ・ライフラインを、地域の状況に応じて、効率的に維持します。

### 危機に対する備えが整っている

地域一体となって防災力・減災力を底上げし、自分たちで安全・安心な暮らしを守ることを目指します。

### 居心地のよい地域コミュニティがつけられている

昔からある島民のつながりや支え合いの精神を大切にしながら、今の時代に合う無理のないコミュニティの在り方へと移行することで、改めて市民と行政が一体となって「助け合いの連鎖」を生み出し、自立した島を目指します。

## ふるさと

-島の価値-

本編  
P.30~31

自慢したい島・選ばれる島

### 対馬の豊かな自然・歴史文化が育まれている

森里海のつながりと恵みを再認識し、人と自然との共存共生関係のバランスを保ちながら、自然環境を回復軌道に乗せるとともに、対馬の自然と歴史文化の価値が島内外に深く認識され、その価値が育まれている島を目指します。

### 対馬出身者や島外から選ばれる島、歓迎する島となっている

対馬の魅力を島民自身が実感し、誇れる島とするとともに、ほかにはない地域の価値を明確に掲げます。こうした島の魅力を発信することで、対馬出身者が一度島外に出ても戻りたくなるUターンや、島外からのIターン者・国内外の人にも選ばれる島を目指します。

対馬を盛り上げようとする  
元気な市民・若者が増えている

本編  
P.37~44

元気な市民・若者が自分の思いをかたちにしてできる場づくり、活動やチャレンジを応援する仕組みを整え、誰もが「やってみよう」と思えるエネルギーにあふれた島を目指します。

- 行政の役割 市民がやりたいことをできる環境をつくる  
移住の選択肢を拡げる
- 市民の役割 若者・移住者がやりたいことを許容するマインドを持つ

成果指標 [KPI]

指標	項目	現状値	目標値[中間]	目標値
20~30代の若者定着率が高まる 地方創生	—	14.6% (令和7年度)	17% (令和12年度)	20% (令和17年度)
今の自分が好きだと思える子ども・若者の割合が増える ※若者の定義 対馬市在住の19歳~39歳 地方創生	小学5年生	80.2%	90%	95%
	中学2年生	63.3%	75%	80%
	高校2年生	54.6%	70%	75%
	若者*	56.5% (令和6年度)	70% (令和12年度)	75% (令和17年度)
健診を受ける人が増える 地方創生	—	42.8% (令和6年度)	48% (令和12年度)	55% (令和17年度)

方針

しまづくりに関与する人材の確保と育成

地方創生

攻め	1-1-1	想いを形にできる人を育てる・応援する	■
守り	1-1-2	誰もが社会に参画できる機会をつくる	■
守り	1-1-3	しまづくりへの参画のきっかけをつくる	■



子育てと子どもの育ちがしやすい環境づくり

攻め	1-2-1	子育て・子育てがもっと楽しくなるしくみをつくる	■
守り	1-2-2	子育て世代・世帯の経済的負担を軽減する	■
守り	1-2-3	安心できる出産の体制を整える	■
守り	1-2-4	対馬っこの郷土愛を育む	■



ミドル・シニア層が活躍し続ける環境づくり

攻め	1-3-1	ミドル・シニア層の活躍を支援する	■
守り	1-3-2	いきいき暮らせる環境を整える	■
守り	1-3-3	郷土愛を伝える大人を増やす	■



ひと  
「人口」

■攻めの方針とは

「攻めの方針」は、ひと・なりわい・つながり・ふるさとのそれぞれの分野において、特に力を入れて挑戦する方針として位置づけるものです。

地方創生 は、地方版総合戦略の成果指標及び方針となります。

対馬市が10年後に目指す「共創・自立・循環の宝島」への道のりにおいて、最初の5年間は、市民一人ひとりが主役となり、一歩踏み出す「行動」の段階です。

「自分にできること」を楽しみながら実践し、多様な可能性をともに育む。そのような前向きなエネルギーが島中に満ち、未来を明るく照らす行動が連鎖している状態を目指します。

## 多様な働き方が浸透している

本編  
P.45～51

島民一人ひとりが、それぞれの暮らし方や価値観に合った働き方を選べる柔軟でしなやかな社会をつくり、地域課題に対応できる担い手の確保を目指します。

行政の役割 経営を仕組みで支える

市民の役割 将来を見据えた経営をする(海の資源管理、農地林地の保全、商工業の持続など)

### 成果指標 [KPI]

指標	現状値	目標値[中間]	目標値
起業・創業が増える <b>地方創生</b>	合計13件 (令和2～7年度)	合計15件 (令和8～12年度)	合計30件 (令和8～17年度)
保育所の待機児童数を0にする	12件 (令和6年度)	0件 (令和12年度)	0件 (令和17年度)

### 方針

#### 産業構造の変革と維持

攻め	守り	内容	地方創生
2-1-1	産業・分野連携で付加価値の高い構造へ転換する	■	■
2-1-2	各産業のしごとの価値と魅力を高める	■	■
2-1-3	島内流通システムを構築する	■	■

#### しごとづくりの挑戦を支える

攻め	2-2-1	対馬にあたらしい価値を生み出すきっかけをつくる	■
守り	2-2-2	事業継続・事業承継を支援する	■
守り	2-2-3	起業・創業しやすい環境を整える	■

#### 新たな働き方を生む

攻め	2-3-1	自分らしく働ける選択肢が広がる環境をつくる	■
守り	2-3-2	島外企業と連携した仕事づくり	■
守り	2-3-3	学び直しの支援	■



なりわい「経済」

#### ■守りの方針とは

「守りの方針」は、ひと・なりわい・つながり・ふるさとのそれぞれの分野で、継続的に施策を進めてきた内容、市民生活にとって必要不可欠な内容を維持するために、持続性を重視して行う内容です。

## つながりと便利な生活環境・機会がある

生活に必要な交通や公共施設・インフラが整い、災害に強く誰もが安全・安心に暮らせる環境のもと、年齢・身体・居住地・立場に関係なく、生活・買い物・医療・学び・交流のために行きたい場所に行ける環境、会いたい人や必要なサービス・機会にアクセスできる環境を目指します。

**行政の役割** 集約化、シェアリング、外部化などを組み合わせて、効率的にインフラを提供する

**市民の役割** 地域のインフラを支える一員として関わり、仕組みの転換を行政と共に進める

### 成果指標 [KPI]

指標	現状値	目標値[中間]	目標値
公共交通に関する満足度が高まる	49.4% (令和4年度)	50% (令和12年度)	50%以上 (令和17年度)
公共施設(建物)の統廃合が進む	458,655㎡ (令和4年度)	420,000㎡ (令和12年度)	400,000㎡ (令和17年度)
避難訓練実施地区数が増える	2地区 (令和6年度)	12地区 (令和12年度)	20地区 (令和17年度)
買い物支援を行っている地域の数が増える <small>地方創生</small>	5地区 (令和7年度)	7地区 (令和12年度)	10地区 (令和17年度)

### 方針

#### 地域交通の再編維持と新たな展開

攻め	3-1-1	移動に困らない新しいモビリティの形をつくる	地方創生
守り	3-1-2	航路・航空路の利便性を維持する	
守り	3-1-3	交通人材を確保する	



#### 公共施設の再編維持と活用

攻め	3-2-1	公共施設を無駄なく賢く運営する	
守り	3-2-2	インフラを安定的に維持する	



#### 集落機能の再編検討

攻め	3-3-1	市街地と集落がつながりで暮らしを高める	
守り	3-3-2	コンパクト+ネットワーク+小さな拠点を推進する	
守り	3-3-3	地域共生社会を推進する	



#### 危機管理と防災機能の維持

攻め	3-4-1	民主体で、危機への対応力を高める	
守り	3-4-2	防災・減災に向けた訓練・知識を浸透する	
守り	3-4-3	災害時要支援者に対する支援体制を整える	



#### コミュニティ再編と新たな展開

攻め	3-5-1	内にも外にもつながるコミュニティをつくる	
守り	3-5-2	地区の魅力を磨き上げる	
守り	3-5-3	地区と外のつながりをつくる	



対馬市が10年後に目指す「共創・自立・循環の宝島」への道のりにおいて、最初の5年間は、市民一人ひとりが主役となり、一歩踏み出す「行動」の段階です。

「自分にできること」を楽しみながら実践し、多様な可能性をともに育む。そのような前向きなエネルギーが島中に満ち、未来を明るく照らす行動が連鎖している状態を目指します。

## 島の豊かさが市民の誇りと自慢になり、 市内外から注目されている

本編  
P.63～72

豊かな自然環境と共存共栄し、地域の人々の暮らしや経済活動、文化活動が営まれる持続可能な島を目指します。

行政の役割 利便性と自然環境の保全を最大限両立させるための、島の面的なデザインを行う

市民の役割 環境負荷の少ない暮らしを行い、島の魅力を外に伝える

### 成果指標 [KPI]

指標	現状値	目標値[中間]	目標値
観光客数が増える <span style="background-color: #4a7c9c; color: white; padding: 2px;">地方創生</span>	303,546人 (令和6年度)	392,000人 (令和12年度)	480,000人 (令和17年度)
市内の博物館等の入館者数が増える	35,022人 (令和6年度)	54,000人 (令和12年度)	72,000人 (令和17年度)
空き家バンク成約数が増える <span style="background-color: #4a7c9c; color: white; padding: 2px;">地方創生</span>	合計43件 (令和3～7年度)	合計45件 (令和8～12年度)	合計90件 (令和8～17年度)

### 方針

#### 里地・里山・里海の保全

地方創生

攻め	4-1-1	里地・里山・里海のいのちを未来につなぐ	
守り	4-1-2	対馬固有の生物多様性の保全・管理を進める	
守り	4-1-3	環境対策を推進する	
守り	4-1-4	海洋資源の保全・管理を進める	



#### 歴史文化の活用と保全

攻め	4-2-1	歴史文化を核とした誇れる対馬がつくられる	
守り	4-2-2	文化財の保存と継承を進める	
守り	4-2-3	郷土愛を伝える大人を増やす <再掲>	



#### 宝みがきと地域の自慢

攻め	4-3-1	対馬の価値を内にも外にも自慢する	
守り	4-3-2	美しいまちづくりを進める	
守り	4-3-3	島外居住者の受入体制を整える	



#### 住まいの確保

攻め	4-4-1	住みたい地域に住める仕組みをつくる	
守り	4-4-2	地区の魅力を磨き上げる <再掲>	
守り	4-4-3	地区と外のつながりをつくる <再掲>	



ふるなつ「島の価値」

# 未来に残したい対馬の豊かさ

私たちの島、対馬にあるかけがえのない豊かさ、歴史文化に改めて目を向けてみませんか？



## 地域のみなさんの声

- 子どもで賑やかな町。● 女性が暮らしやすい。● ほぼ全改修か新築の方が安いぐらいの築古なのに家賃も地方都市並みで高い。対馬は思ってる以上にポテンシャルがあるのにそこでほぼふるいに落としていると思う。静かさはこのままでいい。でも衰退せず自然豊かなのに近代的で栄えた島がいい。● 高校卒業後の進学は島外しか選択肢がないので、対馬ならではの教育機関を誘致して、島内外から学びに来れる環境づくり。● もっと日本人の方が定期的に訪れ、いずれは住みたいと思ってもらえる対馬になってほしい。● 前向きに挑戦していく市。● 社会課題について特区を制定して全国から人が移住してくるしくみをつくる。● 若者が活躍できる居場所や支援の充実。● 人口を「増やす」のではなく、市民全員が「人口は減る」ことを大前提と認識することがまず大事。● 島外にもっと気軽に出かけられるように便数の増加や低価格化。● おしゃれな場所、食事をする場所遊ぶ場所がもっと増えること。● 物心ともにゆたかな島になるといいなと思う。● 人口減少はおそらく止められないが、逆に対馬に住む条件を維持することが大事だと思う(買い物ができること、インフラ・バス・交通の維持など)。● 色々な恩恵を受けて成り立っている島だと思うので、みんなが知っていたり、知る機会があったり、とにかく情報がオープンな対馬になるといいなと思う。● 消費より、生産や再生が上回る社会の仕組みを作る事が対馬の良さを活かすことになると思う。その事を一次産業含め経済、エネルギー、そして教育に活かす仕組み作りを。● 若い世代が移住したり戻ってきて子どもが増えるために、地元の私たちが移住者に対してもっとウェルカムに応援する気持ちを持つこと。地元企業もしかり。移住して対馬で頑張ってくれている人に対して地元民はよそ者扱いというか冷たいところがあると感じる。● 子どもたちや島外に住む対馬の人にも幅広く意見をもらえるようにしてほしい。対馬で生まれた子がまた戻りたくなる環境を整えたい。対馬出身の実はずい人が全国に散らばっているのに戻ってこず残念。● 将来はやっぱり人口が増えること。

計画の策定にあたり市民会議などでもいただいた意見を掲載しています。

# わたしたち一人ひとりにできるしまづくり



- 優良企業が増えるといいなと思う。
- 過疎が止められない地域は「村納め」をして維持公共コストを下げる。
- 行政執行若返りによる大幅な改革。
- 無駄のない暮らし。
- 社会として存在し続けること。
- 市全体が今までこうだったから、では無く、これからはこうしなければならいと、新しいことに挑戦してもらいたい。
- もっと尖った魅力ある学校作りをしてほしい。
- 海や川に家庭ごみや生ごみを、山に空き缶やペットボトルを捨てられることのない対馬。
- 子育て世帯に移住して貰わないと意味がない。SNSやテレビ出演、なんでもいいからなりふり構わず移住者を募るべき。
- 住んでないのに何となく売ってない家が多すぎる。行政が積極的に介入し、空き家を買取り、移住子育て世帯に格安で販売を。
- 子どもファーストの島、「対馬で子育て出来たらなあ！」と対馬出身の人に羨ましがれる島。
- 高校生のアルバイトとバイク通学解禁。
- 福岡-対馬間の交通費を安くしないと、子ども家族がお金がかかるからと帰ってこない。観光客も安かつたらもっと度々来たいと言っている。
- 古い慣習にとらわれ、新しい試みを受け入れない停滞した姿勢がなくなること。
- 傷んだ森の再生、環境保全公共工事が認められて、持続可能な環境を増やして、モデル地区・先進地になって、観光交流人口が継続して来てもらえる島。
- もっと対馬の環境を維持することに力を入れてほしい。
- まずは人口流出を少しでも抑えるべく、若い家族が島外に流出しないよう、子育て世代に優しい街に変革してほしい。
- 海洋漂着物問題を解決、利用する事は島の将来にとって大きな柱となると思う。
- 先導役であるはずの市議会改革は最重要課題では。
- 無理して外国人を入れて人口増加するより、交通費を軽減して必要な時に都会に行き、用を済ませやすくなると嬉しい。
- 島は島のもの。自然を変えればいつか島はなくなる。自然と人間の共存を突き詰めた島ができたらいい。
- 地球が温暖化しても、魚や海藻を食べたい。外来種などの心配なく、海や川で泳ぎ、山で虫とりをしたい。
- 学校でも対馬ってすごいんだなって思えるような授業をしてほしい。例えば地元の神社の成り立ちや古事記にも対馬が出てくること。亥の子なども珍しい行事なのでその成り立ちを調べてみるとか。
- 日本のモデルケースや他地域の救世主になれるような対馬。

わくわくと可能性が広がる  
未来を育てる行動が  
展開されている島



作成：対馬市しまづくり推進部政策企画課  
〒817-8510 長崎県対馬市厳原町国分1441番地  
電話 0920-53-6111 FAX 0920-53-6112



第3次対馬市総合計画の本編は、対馬市のホームページでご覧いただけます。